

平成25年度小・中学校理科教育ステップUP!プラン事業

「小学校理科学校内研修支援事業」

実施報告

松前町立大島小学校

*学級数 7 *児童数 54

支援員勤務学校名	職名	氏名	専門分野
北海道松前高等学校	教頭	金澤 豪	化学

【本事業のねらい】

観察・実験などの教員の指導力の向上を目的に、小学校第5学年「物のとけ方」と第6学年「水よう液の性質」の単元における、「児童に目的意識をもたせる導入の工夫」と「身の回りの水溶液の性質を調べる方法の工夫」について、研修を実施する。

【実施内容】

1月22日14:15～15:45、大島小学校理科室において、9名の教員を対象に、小学校第5学年「物のとけ方」の指導の工夫について「食塩の溶け方」「溶けたものの体積と重さ」の観察・実験を行った。さらに、小学校第6学年「水よう液の性質」の指導の工夫について「身の回りの水溶液の性質調べ」を行った。



【本事業での主な参加者の声】（アンケート記述から一部抜粋）

- ・今まで知らなかった新しい教材を使って教えていただき、大変勉強になりました。
- ・児童の科学的事象の理解を助ける、工夫された実験を紹介していただき、今後の指導への参考となりました。また、補足的にお話していただいた理科知識も非常にためになりました。
- ・身近なものに関連付けて学ぶことで、児童の関心がより高まることを改めて実感しました。
- ・知識としておさえることばかり考えてしまうが、じっくり見せることを大切にしなければならぬことがよく分かりました。
- ・低学年の担任が続くと、理科と縁遠くなり、このままではよくないなと思いました。自分からいろいろな教科にかかわっていかこうとする姿勢をもたなければと反省しました。
- ・実践の幅を広げていただきました。スキルや方法だけでなく、その理由や仕組みなどについて詳しく説明していただいたのもよかったです。

【来年度以降の実施に向けて】

継続的な観察やデータ収集が必要な「季節による植物の変化」や「天気」の学習では、児童の意欲や知識・理解の低下が見られることがある。目的意識を継続していくための教師の働きかけや指導上の工夫を研修したい。